

三位一体のキャリア支援で 社会に羽ばたく女性を育成



群馬県立女子大学

キャリア支援センター 専任講師 太田千秋

1 群馬県立女子大学、キャリア支援センター

本学は、1980年に創立された群馬県南部の佐波郡に位置する学生数約千名の小規模大学である。

現在は文学部(国文学科、英米文化学科、美学美術史学科、総合教養学科)、国際コミュニケーション学部(英語コミュニケーション課程、国際ビジネス課程)の2学部と大学院の2研究科を擁しており、学生の県内出身者率は約45%と、県外出身者が県内出身者を越えているのが特徴である。

本学は2014年にキャリア支援センター(以下、センターと表記)を設置した。これは、今日の複雑化多様化する社会の中で、学生が目的意識を持って自らの将来のキャリアを考え生涯を通じた就業力を身に付けることにより、社会的職業的な自立を図ることを支援するためのキャリア教育と就職支援業務を総合的に担う組織である。

センター長(学長)のもと、運営については、各学科等選出の教員、センター専任教員、職員等で構成されるセンター運営委員会が月1回開催され、主にキャリア教育、進路・就職支援事業についての審議と進捗状況、学生の進路決定状況の報告、情報共有等がなされる。

2 全学的キャリア支援の推進…2つの特徴

(1) センター所属専任教員の配置
本学は、社会の変化に迅速に対応し

つつ本学学生の専攻・特性・地域性等に合わせたキャリア支援体制を構築するため、2015年からセンターに専任教員を配置した。専任教員は、キャリア教育科目、キャリア支援事業・個別支援の企画立案、個別相談等を担当している。施策としては、センター開講科目の設置、進路・就職支援事業(正課外)の拡充(年間20種類以上)、学内施策参加企業数増(2019年度:158社)、ハローワークやジョブカフェとの連携、個別支援体制の強化等を推進してきた。

(2) 教員・職員・キャリアコンサルタントが連携する三位一体の個別支援

自宅外生が半数以上を占める本学では、小規模大学ならではのきめ細やかな目配りで、教職員が学生の学び・生活・諸活動を支えている。進路・就職支援では、教員・職員・キャリアコンサルタント(以下、相談員と表記)が連携を取り、学生をひとりも取りこぼすことなく卒業年次の3月まで伴走する個別支援が特徴である。

センターでは、学生の主体性を尊重し、学生が必要とするタイミングで希望する支援を行う体制を整えており、学生によって活用する内容や度合いは様々である。毎年千件を超える個別相談は、相談員4人で対応している。

早期から進路選択行動を促すため、2・3年生全員に生活状況や進路希望等を確認する面談を実施しており、こ

の情報と進路希望台帳の情報を個別支援の際に活用する。進路希望台帳は、進路に関する個人情報に個別相談の履歴、支援事業への参加状況を追加記載していくもので、職員はこれで3年次以降の就活等進捗状況を把握する。

4年次からは、センター運営委員とゼミ担当教員、職員、相談員が三位一体で個別情報を確認しつつ、学生の様子に配慮しながら見守り、進路決定まで伴走する。これら支援の結果、センター設置以降の就職率は常に大卒文系平均を上回り、実就職率^(注)は設置前の86.8%から93.3%にアップした。

3 社会の役割を担う人材の育成

センターでは、学生が自ら決めた進路に納得して社会に漕ぎ出すことを大事にしている。納得した進路というのは、自分で考え行動し選び取った進路にはかならない。そのプロセスには想像以上に時間がかかるものであり、社会に目を向け自らのキャリア形成や進路選択を考え始めるのは早いに越したことはない。低学年からのキャリア教育に加え、今年度から支援事業でも低学年への働きかけを強化し、4年生が就活ピアサポーターとして後輩の支援にかかわる取り組みも始めた。

センターでは、今後も学生が学内外の学びや活動を通して支援を受ける側から支援をする側へ成長する過程を見守り、主体的に役割を担う人材として社会に羽ばたけるよう、働きかけを行っていく。